

令和7年度学校評価アンケートの結果と分析

新宿区立市谷小学校

＜確かな学力の向上＞

主体的・対話的で深い学び及び教科担任制

育成したい資質・能力を明確にし、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」につながる創意工夫した学習指導を行い、教員の授業改善を図る。

【評価指標】

★学校評価における「わかりやすい授業」や「教科担任制」に係る項目で90%以上の肯定的回答回答を得るとともに、各学力調査において、学校平均がそれぞれの調査母体の平均を上回る。

※全国学力（6年）は実施済（国語、算数）

新宿区学力定着度調査（2～6年）については、12月に実施したが、結果は未確定。

◇学校評価アンケート

児童「先生の授業は分かりやすいと思う」

保護者「学校の先生は、分かりやすい授業を行っていると思う」

教職員「あなたは、児童にとって、分かりやすい授業を行っている」

(単位 %)

	児童（低学年）	児童（中・高学年）	保護者	教職員
とてもそう思う	64	73	27	40
そう思う	30	24	54	40
あまり思わない	4	2	7	20
思わない	2	1	1	0
分からぬ	0	0	11	0

【分析】

○児童の肯定的な回答が9割以上であることから、分かりやすい授業に向けた教員の熱意や努力が、児童の学習内容の理解につながっており、それを多くの児童も実感していることが伺える。また、保護者の肯定的な回答も8割を超えており、本校における学習活動について理解していただいていると考える。

※全国学力テストにおける6年生の結果は、全教科の全領域で、全国平均を上回っている。

▼肯定的な回答を示していない児童もいるので、今後、個に応じた指導がさらに必要である。

▼分からぬと回答した保護者が1割を超えており、授業改善に関わる取組については学校公開や学校HPなどでさらに発信していく。

◇学校評価アンケート

児童「教科担任の先生が教えてくれる授業は分かりやすいと思う」

保護者「教科担任制等の取組は、様々な教員による児童理解や分かりやすい授業づくりにつながっていると思う」

教職員「教科担任制等の取組は、様々な教員による児童理解や分かりやすい授業づくりにつながっていると思う」

(単位 %)

	児童（低学年）	児童（中・高学年）	保護者	教職員
とてもそう思う		66	34	40
そう思う		28	50	60
あまり思わない		4	1	0
思わない		2	1	0
分からぬ		0	13	0

【分析】

- 肯定的な回答をした中・高学年児童は9割を超えており、教科担任制による充実した教材準備や専門性の向上が授業改善につながっている。
- 肯定的な回答をした保護者は、初めて8割を超えた。学校公開等で、教科担任制に係る授業の様子について理解していただいたものと考える。
- 肯定的な回答を教員は全員であったことから、教科担任制の導入から数年が経過し、より円滑に実施できるようになってきたことが伺える。
- ▼分からないと回答した保護者が1割以上いるので、教科担任制の成果について、さらに発信していく。

情報活用能力

効果的にタブレット端末を活用する単元構成や授業展開するとともに、教材の蓄積や共有などの学習環境を確立し、授業改善につなげる。

【評価指標】

★学校評価における「ICTの活用」に係る項目で90%以上の肯定的回答回答を得る。

◇学校評価アンケート

児童「先生はタブレット端末などを使って、『調べる』、『まとめる』、『伝え合う』授業をよく行っていると思う」
保護者「学校は、タブレット端末などを使って、子どもが『調べる』、『まとめる』、『伝え合う』授業をよく行っていると思う」

教職員「あなたは、『主体的・対話的で深い学び』の視点で、タブレット端末などを活用している」

(単位 %)

	児童(低学年)	児童(中・高学年)	保護者	教職員
とてもそう思う	34	67	25	30
そう思う	32	24	48	40
あまり思わない	30	8	7	30
思わない	4	1	4	0
分からない	0	0	16	0

【分析】

- 肯定的な回答をした児童は、中・高学年では9割を超えており、タブレット端末等を意欲的かつ効果的に使いながら授業に取り組んでいる様子が伺える。
- 肯定的な回答をした保護者は、初めて8割を超えた。学校公開等で、タブレットPCを活用した授業の様子について理解していただいたものと考える。
- ▼低学年においては、肯定的な回答をしなかった児童が3割以上いるので、低学年がタブレット端末を使用できる場面を模索していくことが必要である。
- ▼肯定的な回答をした教職員は8割を下回った。OJT研修や教員同士の授業参観や情報共有の機会を設けることで、さらに積極的なICT活用につなげていく。

<豊かな心の育成>

いじめ防止

いじめ、不登校、問題行動等対し、教員間の連携を密にし、hyper-QU及びアンケート調査の活用、SC面談の実施、いじめ防止対策委員会により、未然防止や早期対応を図る。

【評価指標】

★学校評価における「いじめ関連」に係る項目で90%以上の肯定的回答回答を得る。

★毎月実施の「ふれあいアンケート」の回答や記述及びhyper-QUの結果を分析・共有を図り、対応する。

※4月から12月末までのいじめの発生件数は17件であった。そのうち4件が経過観察中（発生3か月まで）である。

◇学校評価アンケート

児童「いじめ等の問題がある時には、すぐに先生に相談することができる（しようと思う）」

保護者「いじめやいじめの疑いがある時には、すぐに先生に相談することができる（しようと思う）」

教職員「あなたは、児童の話を聞くなど、交友関係の把握やいじめの早期発見に努めている」

(単位 %)

	児童（低学年）	児童（中・高学年）	保護者	教職員
とてもそう思う	46	50	34	40
そう思う	32	34	50	60
あまり思わない	13	12	5	0
思わない	9	4	1	0
分からない	0	0	10	0

【分析】

○児童、保護者の肯定的な回答は、8割程度に及んでいる。

○全教職員が肯定的な回答をしている。いじめ防止に対する教職員の意識がさらに高まっている。

▼肯定的な回答ではなかった児童が2割程度いるので、児童がいつでも、どんなことでも相談できるような風土や関係づくり及び環境整備に努めていく。

▼ふれあいアンケートの実施方法を工夫・改善する。

あいさつ

教員の率先垂範をもとに、登下校、朝会や帰りの会、授業前後等の日常のあいさつの充実に努める。

【評価指標】

★学校評価における「あいさつ」に係る項目で90%以上の肯定的回答を得る。

◇学校評価アンケート

児童「学校や家庭、地域で自分からきちんとあいさつをしている」

保護者「子どもたちは、学校や地域で自分からきちんとあいさつしている」

教職員「あなたは、児童の人権を尊重し、あいさつや言葉掛け、呼び名等、丁寧に行っている」

(単位 %)

	児童（低学年）	児童（中・高学年）	保護者	教職員
とてもそう思う	49	53	21	60
そう思う	37	38	50	40
あまり思わない	11	7	12	0
思わない	4	2	3	0
分からない	0	0	14	0

【分析】

○肯定的な回答が児童が9割程度であることから、あいさつに対する意識は高い。地域の方々による毎日の登下校の見守りも大きな成果となって表れている。

○全教職員が肯定的な回答をしており、あいさつについても、日頃から意識を高くもち、重点的に指導しようとする姿勢が見られる。

▼肯定的な回答に及ばなかった児童に対していかにアプローチをして、あいさつを習慣付けていくかについては、

検討、工夫の余地がある。

▼今年度から保護者への設問を「子どもたち」を主語に設定したが、否定的な回答と「分からぬ」が1割以上見られることから、保護者の意識を高められるよう学校と家庭が連携してあいさつの改善を図っていく必要がある。

豊かな心の育成

道徳科の授業や縦割り班活動等の充実を図り、子ども同士のかかわりを通して、豊かな心の育成に努める。

【評価指標】

★学校評価における「思いやり」に係る項目で90%以上の肯定的回答を得る。

◇学校評価アンケート

児童「自分やまわりの人たちを大切にし、やさしくしている」

保護者「子どもたちは、友達と協力したり、他者にやさしく接したりする態度が育っている」

教職員「あなたは、児童が集団の中で友達と協力したり、他者にやさしくしたりできるよう指導を行っている」

(単位 %)

	児童(低学年)	児童(中・高学年)	保護者	教職員
とてもそう思う	54	54	18	60
そう思う	33	42	62	40
あまり思わない	11	4	11	0
思わない	2	0	1	0
分からぬ	0	0	8	0

【分析】

○児童の肯定的な回答は9割程度、保護者は8割に及んでいることから、他者に思いやりをもって接しようとする意識は高いと考える。

▲肯定的な回答ではなかった児童の要因や生活環境などにも配慮しながら、今後関わっていく。

<体力の向上>

体育の授業において、体を動かす時間をできる限り確保するとともに、運動の特性を踏まえ、創意工夫した指導を行い、運動の楽しさを味わわせる。

新宿ギネスの取組を活かし、体力向上への意識を高め、継続的に取り組む態度の育成を図る。

【評価指標】

★学校評価での運動への主体性や楽しさに係る項目で、85%以上の肯定的回答を得る。

※体力テストについては、1学期に実施し、結果も示されている。

◇学校評価アンケート

児童「体育の学習は、体を動かすことができて楽しい」

保護者「学校は体育の授業や休み時間を通じて子どもたちが体を動かし、体力の向上を図れるよう指導を行っている」

(単位 %)

	児童(低学年)	児童(中・高学年)	保護者	教職員
とてもそう思う	78	74	23	
そう思う	16	17	56	
あまり思わない	4	7	8	
思わない	2	2	2	
分からぬ	0	0	12	

【分析】

- 児童の肯定的な回答が9割以上となった。体力・運動能力とは別に、すすんで運動しようという意欲が高い児童が多いことが伺える。
- ▼体力テストではどの学年も全国平均を下回ったので、特に課題の見られる持久力、走力、瞬発力及び投力の習得を意図的に行っていく必要がある。
- ▼体育の指導内容や「新宿ギネス」、体育朝会（長縄、短縄等）を引き続き工夫を凝らして行う。

＜地域連携＞

地域と学校との連携強化のために、地域協働学校運営協議会委員やスクールコーディネーター等の地域人材との連携を密にする。

【評価指標】

★学校評価アンケートにおける「地域の人と一緒に活動をしている」という項目で、80%以上の肯定的回答を得る。

◇学校評価アンケート

児童「学校に関わる地域の人から様々なことを教わったり、一緒に活動したりしたことがある」

保護者「学校は、子どもが学校に関わる地域の人と一緒に活動する機会をよくつくっていると思う」

教職員「あなたは、児童が、学校に関わる地域の人と一緒に活動する機会に積極的に関わっている」

（単位 %）

	児童（低学年）	児童（中・高学年）	保護者	教職員
とてもそう思う	55	42	36	30
そう思う	31	36	51	63
あまり思わない	10	20	3	7
思わない	4	3	0	0
分からぬ	0	0	10	0

【分析】

○児童の肯定的な回答については、8割程度である。1年生は3学期の昔遊びを実施していないにもかかわらずこのような良好な状況であるのは、入学直後の下校の見守りなど、1年生児童と地域の方々が関わる機会や各地域行事の成果だと考える。

○保護者の肯定的な回答が昨年度より10ポイント増となり、「分からぬ」という回答は8ポイント減となった。120周年関連行事の実施及び地域協働によりや学校HPによる発信の成果であると考える。

▲中・高学年児童における地域連携授業については年度前半からさらに充実を図っていく。

▲「分からぬ」と回答する保護者が1割程度いるので、各たよりや学校ホームページなど、地域と関わる取組についての発信にさらに努めていく必要がある。